

リタ・ヘイワース

Rita Hayworth

リタ・キャンシノ □ Rita Cansino

生年月日 1918/10/17

出身地 アメリカ／ニューヨーク市ブルックリン

没年 1987/05/14

オーソン・ウェルズ（元夫）

関連人物 ジェームズ・ヒル（元夫）

ディック・ヘイムズ（元夫）

マーク・マケロー（孫）

【バイオグラフィ】

■本名はMargarita Carmen Cansino。父はラテン・ダンサー、母もダンサーだった。幼い頃から父にダンスを習い、メキシコなどのクラブで踊っていた。FOXから35年「ダンテの地獄篇」で映画デビュー（同年の“Under the Pampas Moon”がデビューという説もある）。出演作を重ねる内に認められ、36年の「ラモナ」の主演に選ばれたが、FOXが20世紀と合併するゴタゴタの中で出演は白紙に戻され、翌年の「ガルシアの伝令」を最後に解雇。同年コロンビア作品の「完全犯罪」に出演し、一度目の結婚を期にリタ・ヘイワースと改名。「麗人野球団」で再スタートとなった。以降、ホークスの「コンドル」、「いちごブロンド」と出演ごとに人気も上がり、「血と砂」、「踊る結婚式」と絶頂期を迎えた。「ギルダ」での長い手袋を踊りながら脱ぎ捨てるシーンはあまりにも有名で、“ハリウッドのセックス・シンボル”と評されていたのもこの頃。43年オーソン・ウェルズと再婚後、娘も生れたが47年離婚。その後もインドの王子やディック・ヘイムズ、ジェームズ・ヒルなどと結婚し、その都度数年間映画界から離れることでも有名だった。87年、アルツハイマー病で他界。

【フィルモグラフィ】

| | |
|--------------------------|----------------|
| ウエスタンヒーローズ／西部劇名場面集（1977） | 出演 |
| サンタマリア特命隊（1972） | 出演 |
| 渚の果てにこの愛を（1970） | 出演 |
| バスター（1968） | 出演 |
| 残虐の掟（1967） | 出演 |
| 悪のシンフォニー（1966） | 出演 |
| 銭の罠（1965） | 出演 |
| 妖艶美女大全集／銀幕の女神たち（1965） | 出演 |
| サーカスの世界（1964） | 出演 |
| 楽しい泥棒日記（1962） | 出演 |
| コルドラへの道（1959） | 出演 |
| 旅路（1958） | 出演 |
| 夜の豹（1957） | 出演 |
| 海の荒くれ（1957） | 出演 |
| 雨に濡れた欲情（1953） | 出演 : サディ・トンプソン |
| 情炎の女サロメ（1953） | 出演 |
| 醜聞（スキャンダル）殺人事件（1952） | 出演 |
| カルメン（1948） | 出演 |

| | |
|-------------------------|----|
| 上海から來た女 (1947) | 出演 |
| 地上に降りた女神 (1947) | 出演 |
| ギルダ (1946) | 出演 |
| 今宵よ永遠に (1945) | 出演 |
| カバーガール (1944) | 出演 |
| 晴れて今宵は (1942) | 出演 |
| 運命の饗宴 (1942) | 出演 |
| 血と砂 (1941) | 出演 |
| 踊る結婚式 (1941) | 出演 |
| いちごブロンド (1941) | 出演 |
| 紐育 (ニューヨーク) の天使 (1940) | 出演 |
| ミュージック・イン・マイ・ハート (1940) | 出演 |
| コンドル (1939) | 出演 |
| 嵐の十字路 (1938) | 出演 |
| 麗人野球団 (1937) | 出演 |
| 空のギャング (1937) | 出演 |
| テキサスは大騒ぎ (1937) | 出演 |
| 完全犯罪 (1936) | 出演 |
| ガルシアの伝令 (1936) | 出演 |
| 可愛いオディ (1935) | 出演 |
| コブラ・タンゴ (1935) | 出演 |
| ダンテの地獄篇 (1935) | 出演 |
| ピラミッドの殺人 (1935) | 出演 |